



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2023年2月12日(日) 9:30~12:00(曇り)

参加者 一般:5名

指導員:5名

テーマ 春の気配を感じよう!

一年で最も寒い時期ですが、立春を過ぎ、暦の上では既に春で、朝の予報では午後には3月下旬から4月上旬並の気温になるとのことでした。そこまで気温が上がるとテングチョウなどの成虫越冬の蝶が飛ぶかもと期待し、春らしさを感じさせる早春に咲く花を探して回りました。

ハクモクレン、トサミズキ、サンシュユなどは蕾が膨らみ、来月には咲いているものと見込まれます。吹きさらしの川原や堤防の北側法面では花はほとんど見かけませんでした。日当たりのよい南向きの斜面ではホトケノザ、オオイヌノフグリ、ナズナ、コハコベが咲いていました。これらの植物は場所によっては年末でも咲いていますが、よく目につくようになるのはこれからです。ニホンタンポポも地面に張り付くような短い花茎の先に花をつけていました。この花には数は多くないもののハナアブの仲間などが来ており、近くの地面にはナナホシテントウが歩いていました。暖かくなって虫たちも動き始めたようです。ハルジオンの根生葉には小さな芋虫がいました。隣のスイバを食べるベニシジミの幼虫ではないかと話題になりましたが、帰って調べたところ外来のヤサイゾウムシの幼虫と分かりました。日本にはオスはいてなくてメスだけで繁殖し、いろいろな植物を食べるそうです。

今季、市街地では冬鳥のツグミを見ることは稀ですが、ここの公園ではクロガネモチの木の赤い実をついばみに何羽かが来ていました。北帰に備えてそろそろ群を作りはじめる頃ですが、ここ数年と比べると群は小さい感じです。この日は越冬に来ているイカル、シメ、アトリ、ベニマシコ、カシラダカ、ジョウビタキ、シロハラといった野鳥に出会うことができました。また、留鳥は繁殖期に入ったようで、梢ではシジュウカラやホオジロの囀りが聞かれました。ネコヤナギの蕾を見に立ち寄ったもくもくパラダイスでは、水が抜かれた池をアカハラが歩き回っていました。ツグミやシロハラと同じ仲間ですが、腹部のオレンジ色が目立ちます。この辺りでは3月から4月頃、移動の途中で立ち寄る時に会う程度で、今回はしっかり見られてラッキーでした。

この日、河川堤防を歩いて気になったのは、大野極楽寺公園北側の南派川左岸の河川林が派手に伐採されていたことです。上流の扶桑・江南、下流の一宮でも治水対策として河川林の伐採が進められていましたが、つい到这里まで及んできました。(報告:齋竹)

<その他観察できたもの>

花:ソシンロウバイ、ウメ、サザンカ、ヤブツバキ、ミヤマウグイスカグラ、ヒメオドリコソウ、アオスズメノカタビラ 鳥:スズメ、ヒヨドリ、ムクドリ、キジバト、カワラヒワ、ハクセキレイ、トビ、アオサギ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、メジロ(声)、コゲラ(声)、ウグイス(声) 虫:コガタリリハムシ



(河川林にいるツグミやシメを観察)



膨らんできたハクモクレンの蕾



ヤサイゾウムシの幼虫



ツグミはそろそろ帰り支度か



河川林が伐採されていた